

1面

# 天皇陛下きょう手術

## 東大病院 順天堂大との合同チーム

天皇陛下(78)は18日午前、入院先の東大病院(東京・文京区)で心臓の冠動脈のバイパス手術を受けられる。冠動脈が狭まり、運動などで血流が不足する狭心症と診断されており、手術で血流を確保する。陛下

の手術はがんが見つかった前立腺を全摘出した2003年以来となる。関係者によると、17日までに手術の準備は整い、陛下は病室で皇后さまと過ごされている。入院中や退院後の静養期間中は、皇太子

さまが国事行為の臨時代行などを務められる。陛下は、今日11日の検査で、3本の冠動脈のうち「左回旋枝」と「左前下行枝」で血管が狭くなる狭窄がやや進行していることが判明した。バイパス

手術は、年間1万数千件行われている確立された手法で、医師団は、今後、東日本大震災関連のお見舞いなど陛下の活動と生活の質を向上させる目的で選択、陛下も了承された。手術・治療には、主治医の永井良三・東大病院循環器内科教授のもと、同病院のチームと、バイパス手術の実績が豊富な順天堂大順天堂医院の合同チームである。

を動かしたまま行う「オフポンプ術」と呼ばれる手法を用い、心臓に近い胸内側の動脈を使って狭窄部分の迂回路(バイパス)を作る予定。高度な技術が必要だが、より体への負担が少ないとされる。順天堂医院のチームを率いる天野篤・心臓血管外科教授はオフポンプ術の第一人者とされる。

尾崎重之・東邦大医療センター大橋病院心臓血管外科教授の話「万全の態勢と云える。回旋枝のバイパス手術では、心臓を持ち上げる必要があり、血圧の管理など、麻酔科医や看護師らとのチームワークが重要だ」

△入院直前まで公務38面▽